

# 水産業 恵みの海へ、新たなチャレンジ

未来を展望する  
漁業の村づくりへ

本村漁業は、五トン未満の漁船を使用する沿岸漁業が主体で、水揚げは年間約一七〇トン、その六割が定置網漁業によるものです。この定置網漁業は季節変動が大きく、六月から十月にかけて約七〇%を水揚げします。冬場の供給不足を解消しようと定置網での漁獲物の蓄養を行い、水産物の安定供給に努めています。また、つくり育てる漁業を推進し、藻類養殖も行っています。

近年のリゾート・海洋レジャー等の需要に対応するため、釣船案内、ダイビングやガラスボート等の観光漁業の振興、さらに定置網漁業を利用した体験漁業の推進など漁業の新たな展開にも取り組んでいます。また、港内にある荷捌施設の老朽化に伴い、新たな施設整備に向けて取り組むほか、鮮魚直売施設を利用して、市場機能と連携。鮮魚の流通と安定供給を図り、加工技術を高め付加価値のある特産品の開発促進で販売経路の拡大にも期待がもたれています。さらに、村民の理解を求めるとともに、沿岸海域の利用のあり方や漁場保全にも努めています。



獲れたての海の幸が味わえる「いゆの店」



新たな大型定置網の設置により鮮魚の安定供給が期待されます。

## 海からの恵み



海ぶどう



モスクの収穫



アーサの収穫



第11回  
商工会特産品フェア  
「ありん・くりん市」  
特産品コンテスト  
最優秀賞受賞

読谷村は地産地消を重視しており、地元の食材を使用した製品の開発を積極的に行っています。水産物を使用した製品としては、「骨まで食べられるミジュン マース煮」「海人自慢のもずく丼」を、読谷村・読谷村漁業協同組合・食品に関わる企業、団体の方々と連携して開発しました。もずく丼は 2008 年に開催された第 11 回商工会特産品フェア「ありん・くりん市」特産品コンテストで最優秀賞に輝きました。



ADVENTURE YOMITAN  
体長4メートル、体重1トンのジンベイザメと泳げる

### ジンベイザメと泳ごう

ジンベイザメは読谷近海を回遊して定置網に捕獲されることから、その資源を生かし、大型の生け簀を設置して（自然の状態に近い海の中にある水族館として）コバルトブルーの海で巨大なジンベイザメの生態を観察しながら一緒に泳ぐことができます。まずはチャレンジを！



### 定置網体験 県内最大!!

感動と歓喜の声の中で網はゆっくり上げられます。魚たちはきらきらと輝き、その場でさばかれたお刺身を口にすれば、さらに海の幸のすばらしさを知る事ができます。子どもたちの漁業への理解や環境づくりへの取り組みはそこから始まります。

